

## ■ 充実した3学期に！



1月13日(金)から3学期が始まりましたが、少しずつ日常の感覚を取り戻していますか？ まだまだ新型コロナウイルスの感染状況が厳しい状況にありますが、そのような中、3年生諸君の中には、先週末、大学入学共通テストを受験してきた諸君もいます。1・2年生で大学進学を考えている諸君は、さまざまな手段で問題を見ることができますので、1度解いておくと良いでしょう。本校でも、独自に各教科で解説や対策ポイントについてまとめていますので活用しましょう。

3学期は1年間のまとめの時期になります。先にも記したように、冬場は新型コロナウイルスの感染が拡大する傾向にあります。不安を感じている諸君もいるかと思いますが、この3学期が充実した時間となることを期待します。

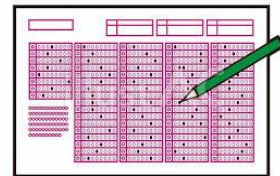
## ■ 3年生の学年末考査に向けて

1月26日(木)・27日(金)・30日(月)と、3年生の学年末考査が実施されます(※特進コース等、大学等の一般受験を控えている生徒を除く。体育コースは26日・27日のみ)。高校最後の定期考査になります。進路も決定し、気が緩んでいる人もいることと思いますが、「これまでのがんばりは何だったの?」という結果にならないように気をつけましょう。進学希望者にとっては、高校在学中の学習は進学先での基礎基本になるでしょうし、就職希望者も、内定企業に「残りの高校生活を少しでも充実させる」と誓っています。それぞれ良い結果となりますように！



## ■ 大学入学共通テストについて

1月14日(土)・15日(日)に実施された大学入学共通テスト。本校でも特進コース、進学コースの3年生を中心に受験してきました。学校としても、今後各教科で問題を分析して生徒諸君に対策方法などを提示していく予定です。十分に活かしてほしいと思います。

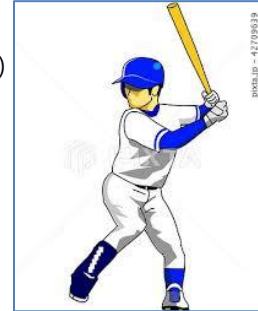


新聞報道などを見ていると、数学が昨年と比較してだいぶ取り組みやすい問題になるなど、全体的に平均点が上昇するのではないかとされています。1・2年生の諸君は、どんな問題が出題されても対応できるような基礎力を養うとともに、傾向をよくつかんでしっかりと対策を講じておくことをお勧めします。そのためにも、基礎を早めに仕上げ、3年生の夏くらいから少しずつ大学入学共通テスト対策を進めていってほしいと思っています。

## ■ 3年生の合格体験記

3年生の合格体験記です。今回は中央大学に合格した佐藤壱聖君、淑徳大学に合格した馬上幸大君、常磐パッケージ株式会社に内定した岡田大空君です。

【合格体験記】 佐藤壱聖君（3年6組）  
中央大学経済学部経済学科（スポーツ推薦）



私は中央大学経済学部経済学科をスポーツ推薦で受験し、合格をいただくことができました。私は高校3年間のほとんどの時間を野球に費やし、打ち込んできました。そこで甲子園という目標を持ち、練習してきました。3年生の夏になり自分の進路も考えなければならない中、今後、プロ野球の道へ進むため、日本一を目指す大学、レベルの高い大学へ進学したいと思いました。

私は、中央大学硬式野球部の練習に参加させていただいた際に、日本一を目指すにふさわしい環境が整っていて、自分自身も中央大学で大きく成長したいと思いました。私の高校野球生活を終え、本格的に入試の準備と自分の技術向上に向けたトレーニングを始めました。入試の内容は、小論文と面接でした。小論文では、国語の先生を中心にコツについてアドバイスをいただき、過去問を解いたり練習を重ねたりしました。面接では、友達、先生に手を借り、様々な質問をしていただきました。様々な質問に受け答えすることで、本番では準備していなかった質問に対しても柔軟に対応することができました。

入試の準備をするに当たり、多様な面で私の入試に手を貸していただいたおかげで合格通知をもらうことができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。感謝の気持ちを忘れず、大学へ進学してから結果で恩返しできるように、夢を追いかけ文武両道で日々成長していきたいと思います。

【合格体験記】 馬上幸大君（3年3組）  
淑徳大学総合福祉学部教育福祉学科（指定校推薦）

私は指定校推薦で淑徳大学に合格することができました。私は今回の大学受験を通して、改めて人に感謝の気持ちを持つことの大切さを学ぶことができました。

私は小学生の頃からスポーツが好きで、中学3年生の頃に体育教師になりたいという夢を持ち始めるようになりました。高校に入学し、気づけば受験生になり焦りを感じていました。たくさんの大学を調べてもなかなか志望校が定まらない中、この淑徳大学を見つけました。

（裏面に続く）

オープンキャンパスに参加し、色々回ってみると、施設が整っており、実習なども充実していて、さらに、私の理想としていた将来像と淑徳大学のビジョンが合致していたため、ここしかないと決意しました。

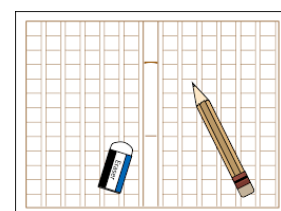
入試の内容が面接と小論文だったため、過去問などを中心に取り組みましたが、本当に難しかったです。特に私は、小論文の練習をするに当たり、国語の能力がないため、友人や先生にしつこいほど相談しました。気づけば、小論文に30題以上取り組んでいました。面接も、自分の受け答えの声を録音して確認するなど工夫して行いました。

この結果、無事に合格できたのですが、たくさんの人に感謝しなければなりません。相談に乗ってくれた友人、忙しい中、資料を取り寄せたり面接の練習に付き合ってくださったりした先生方、そして陰で一番支えてくれた両親など、私のために時間を割いて協力していただきました。合格までの道のりは大変な部分も多くありましたが、自分の将来のために日々精進し頑張っていきたいです。

【合格体験記】 岡田大空君（3年1組）  
常磐パッケージ株式会社内定

私は常磐パッケージ株式会社から内定をいただくことができました。採用試験は、小論文と学科試験と面接がありました。小論文では、「将来の夢と今後の目標」について書き、学科試験では、国語・数学・英語・理科・社会・時事問題が出題されました。五教科に関しては、中学か高校1年くらいのレベルだったので心配はありませんでしたが、小論文は800字程度だったので正直焦りました。面接については、面接官が5~6人いましたが、みなさん優しく接してくださいました。面接官の1人が、緊張してうまく質問に答えられなかった私を見て、「水もってきて！」と他の面接官に指示しており、その水をいただいてからは、緊張もほぐれ、質問に対してしっかりと答えることができました。

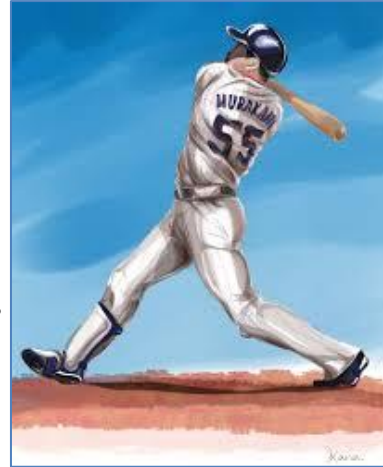
就職試験を終えた後、家で反省しましたが、「もっと面接練習をしておけばよかった」と思いました。先生方からは「後悔しないように、しっかり練習して試験に臨むようにしなさい」と言われていましたが、たった1度しか練習しないで試験に臨んでしまいました。私は結果的に内定をいただくことができましたが、来年受験することになる2年生のみなさんには、悔いが残らないように準備して臨んでほしいと思います。1年生のみなさんは、「まだ先のこと」と思わないでください。あっという間に時間は過ぎてしまいます。授業などコツコツと頑張っておいて積み重ねていくことが大事になると思います。



## ■村上宗隆選手の話

昨年の終盤は、サッカーのワールドカップで日本がドイツとスペインを破るという活躍で日本中が盛り上がりましたね。目標のベスト8には一步届きませんでしたでしたが、ベスト8決定をかけたクロアチア戦を前にした日の夕方は体育コースの教室のある1階フロアはサッカー部を中心に興奮気味の様子でした。

そんなわけで、昨年末にはすっかり忘れ去られてしまった(?) ような印象もありますが、プロ野球・ヤクルトスワローズの村上宗隆選手が昨季のレギュラーシーズンで打撃主要3部門(打率・本塁打・



打点)のタイトルを独占する三冠王に輝き、本塁打数も1964年に王貞治さん(巨人)が達成した日本選手の1シーズンの最多本塁打数だった55本を抜いて56本と最多記録を更新する偉業を成し遂げました。日本選手最多本塁打については、昨季の最終試合の最終打席での更新ということで、ヤクルトファンならずともしびれる展開でした。

入団1年目のキャンプで故野村克也さん(元ヤクルトスワローズ等の監督)から打撃センスを買われてか、「王の55本を抜け! その前に俺の52本を抜け!! (※ちなみに、通算本塁打数は王さんが868本で1位。野村さんが657本で2位)」と檄を入れられていました。そのとき、村上選手はその期待にどれだけ応えられると思っていたかは分かりませんが、プロ入り5年目での快挙達成に、天国で野村さんも驚きの声を上げているかもしれません。

王貞治さんやプロ入り時に目標の選手として挙げていた松井秀喜さんと比較して、広角に打てるのが村上選手の特長とされます。これは中学時代の練習グラウンドとも大きく関係しているようです。当時ライト側がセンターやレフト側と比較して距離が短く、フェンスやネットをいくら高くしても、村上選手の打球はそれを超えてしまい、隣接する住居や小屋の屋根を壊していたそうです。それを見かねた当時の監督が、センターやレフト方向に打つように指示したことで広角に打てるようになったのかもしれないと村上選手本人も語っていました。これが本塁打量産に大きくつながったと見る向きがあります。「当時の環境が今の村上選手を形作った」とも「どのような環境にも順応できる能力が今の村上選手にも生きている」とも言えると思います。

昨年の流行語大賞の年間大賞に村上選手の神がかり的な活躍をたたえる呼び方ということで「村神様」が選ばれましたが、今年もさらなる活躍が期待されます。村上選手がヤクルトスワローズ入団前に憧れていたという松井さんも、「最近、背番号55番と言えば、(松井秀喜ではなく)村上選手ですからね」と村上選手の活躍に脱帽の様子でした。今年はホームランだけでなく、打率や打点でもさらにとんでもない数字をたたき出す可能性があります。本人は将来的にはメジャーリーグへの移籍を希望しているようですが、大谷翔平選手(ロサンゼルス・エンゼルス)に匹敵する活躍をする可能性がありますね。

文責：清水聖(進路指導主事)